

土岐の昔ばなし
第一話

稚児岩

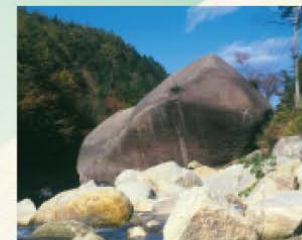


TOKI-City
tourism association
土岐市観光協会

【稚児岩・市指定天然記念物】

岩の長さ18m、重さ13,125トンと推定される花崗岩の巨岩。

成因は、地質学上の捨子石で、河川が谷を形成していく過程で堅い岩塊が現在のように露出し、谷に残された物である。



稚児岩



Webサイトへ

発行:土岐市観光協会

事務局 〒509-5192
岐阜県土岐市土岐津町土岐口2101
(土岐市役所産業振興課内)
TEL 0572-54-1111 FAX 0572-54-0210
<http://toki-kankou.jp>

土岐の昔ばなし 閲覧・印刷できます!

右のQRコードか下記URLからWebサイトにアクセスしてください。
<http://toki-kankou.jp/toki-old-story>

稚児岩

(再話…酒井道子)
(絵…塚本 敦)

ずうつと昔、駄知は淋しく小さな村でした。そんな村の中でも、賢く働き者と評判の加藤彦右衛門とおいとと云う若い夫婦がおりました。とても仲むつまじい二人でしたが、三年たつても四年たつても子どもがなく、淋しいことでした。二人は、夜になると大事にしている子安観音像に

「どうか、どうか子どもをお授けください」と毎晩熱心にお頼みしていました。

そうしたある夏の夜、観音様から「ここから西南五丁ばかりの山上に私と縁のある土地がある。そこに私をお祀りしなさい。さすれば、子を授けよう」とお告げがありました。

翌朝、二人は観音様に導かれ霊峰御岳を背に西へと歩き続け、滝ヶ洞に辿り着きました。深く落ちこむ崖の端に来ますと、不思議なことに観音様はぴたつと止まって動かなくなりました。見ると、その向こうに祠のような洞穴があります。二人が谷に突き出した平な場所へ行こうとしますと、観音様も動きだされたので、その洞穴に子安観音像を安置することにいたしました。

次の日から、二人は、毎夜欠かさず観音参り続けました。そんなある雷雨の晩のことで、お参りをしていた二人に、元気な赤ん坊の

泣き声が聞こえてきました。それは滝ヶ洞の底の方から聞こえてきます。激しい雷雨の中、夢中で声のする谷底へと下りてみましたが、黒々とした大きな岩があるばかりで誰もいません。二人は祠にもどり、もう一度観音様を拝みました。すると、また元気な赤ん坊の声があるではありませんか。じつと声のする方を見ると雷鳴とともにピカッと電光が走り、見えたのは、あの大きな岩でした。

その日からまもなく、二人は子どもを授かり、春には元気な男の子が生まれました。

彦右衛門夫婦は喜びにみち、村の人々に滝ヶ洞に子安観音を安置して拜んでいたこと、雷鳴があつた夜、赤ん坊の泣き声を聞き子どもを授かったことなどを話しました。

その話はすぐ村中に広がり、子安観音参りで、赤ん坊の夜泣き声を聞いた人たちは、あの大きな岩を

「稚児岩」と呼ぶようになりました。こうして、駄知は人々が子安観音を信じたので、人がふえ、にぎやかな富んだ村になりました。

おしまい

滝ヶ洞観音の安置は、元亀二年（一五七一年）と伝えられています。



このお話は、(社)土岐青年会議所発刊の『土岐の昔ばなし』から転載させていただきました。